

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

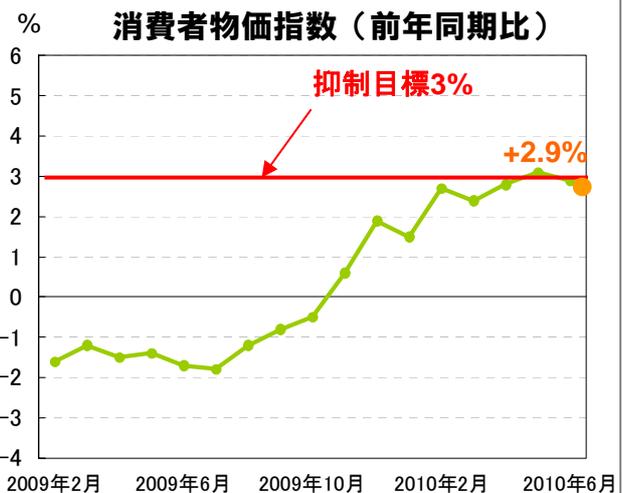
第59号(2010年7月28日)「中国市場動向2010年6月」



引締め懸念の後退

今月中国の様々なマクロ統計データが発表され、おおかた市場予想よりもよい数字が揃いました。

2010年4~6月の実質GDP成長率は10.3%となり、1~3月の11.9%から低下しました。4~6月、欧州の一部で信用問題が懸念されたことで、世界経済全体の回復スピードが若干鈍化してきたものと思われます。これに加え、中国国内の不動産バブルも懸念され、今回のスローダウンは事前予想通りの数字と言えます。また、インフレ目標となる6月の消費者物価指数は、低水準に止まり、利上げなどの引締め懸念が一気に後退しています。(1~6月前年同期比+2.6% 6月単月前年同月比+2.9%)



出所: 中国国家统计局

消費のポテンシャル

1~6月の小売売上高は前年同期比+18.2%、6月単月では前年同月比+18.3%と驚異的な水準を維持しています。

ここ最近、日系企業の中国工場でのストライキが頻発している模様が各メディアで注目されています。こうした中、現行給与の40%上積みを求めている工場もあり、日系メーカーの生産コストの上昇が懸念されています。しかし、このように低所得労働者の所得環境が改善されれば中国の個人消費は直接的に恩恵を受けることが予想されます。また、現在中国で打たれている様々な消費刺激策でも、対象地域が大幅に拡大されたり、対象期間が延長されるなど、追加対策が打たれています。

消費においては、上記の好材料に加え、懸念されるほど物価も上昇していないことから、更なる拡大が期待できるのではないのでしょうか。



出所: 中国国家统计局



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



一部で物価上昇懸念

自然災害:

2010年7月、中国国土資源部が発表した統計によると、今年1月から6月までの半年間に中国全土で起こった地質災害は1万9522件に上りました。これは、前年の同期間と比べて1万7658件の増加で、増加幅では947.3%となります。

さらに7月半ば、中国南部の9省にわたる地域が豪雨に見舞われ、最も深刻な地域では米の60%が収穫不能となったほど、農業に大きな被害が出たようです。それゆえに、野菜、大豆、米などの農産物が急騰し、今後の物価動向に影響を与える恐れがあります。



健康ブーム:



ニンニク

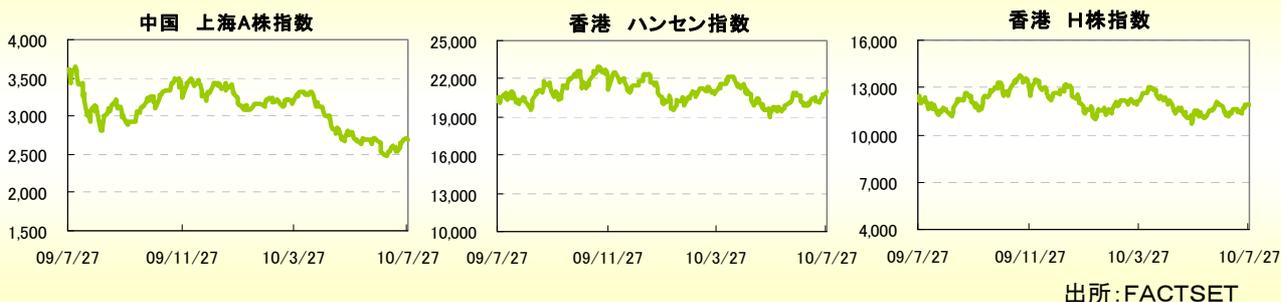
緑豆*

2009年から流行っていた新型インフルエンザに、ニンニクが予防効果があるとの噂が広がったことや、緑豆*が健康にいいとテレビ番組で紹介したことなどから、関連農産物の値段が短期間で数倍に上昇しました。

直近の消費者物価は落ち着いていますが、こういった予測不可能な材料もあり、中国のインフレ懸念が完全に払拭されるのはしばらく難しいかもしれません。

*緑豆: 中国の豆の一種、あずきと似ています。

《主要株価推移》 (各市場の直近1年間)



(編集後記) 中国最大のニンニク産地、山東省済寧市では、ニンニクブームのおかげで多くの農家が「ニンニク長者」となり、その中1億元(約13億円)以上荒稼ぎした人がいるという噂も出ています。13億人の胃袋のポテンシャルはすごいですね。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。